なっとくんの

２０１３年１１月　２日　　No.４８

なるほどなっとくニュース

県立山口博物館
学校地域連携担当

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館のホームページでダウンロードすることができます。

瀬戸内海（せとないかい）でもこんなに侵食（しんしょく）や地層（ちそう）の変化（へんか）が・・・in山陽小野田市（さんようおのだし）！

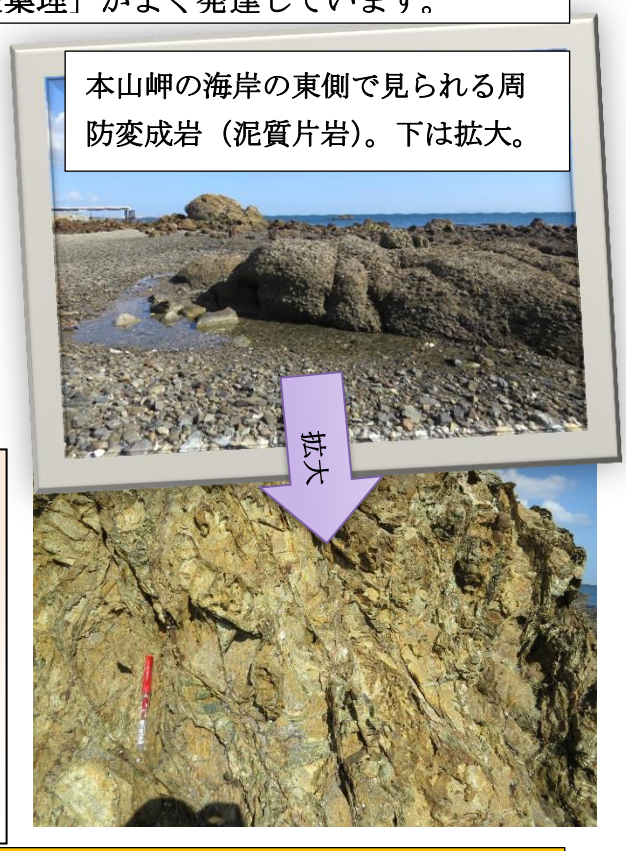
山陽小野田市最南端の本山岬（もとやまみさき）

東側から見たくぐり岩（海食洞）

西側から見たくぐり岩

くぐり岩周辺の海食崖（がい）

山陽小野田市の本山岬の海岸に降りると、西側に「くぐり岩」があります。周辺は砂レキ層からできていて、たい積するときに海水の潮流によって、主要たい積面（層理面）に対して斜めにたい積した「斜交葉理」がよく発達しています。



山陽小野田市の海岸にはさまざまな種類のたい積した地層が見られます。特に、干潮の時間帯をねらって行くと、写真のような多様なたい積物やそれがさらに侵食されてできたおもしろい地形に直接ふれることができます。　（10/21 撮影）

山陽小野田市平松海岸の「不整合」

約２億年以上前の美祢層群（黒色粘板岩）を、大きなレキを含むレキ岩が不整合におおっています。美祢層群が陸上で侵食され、表面に凹凸ができた後に再び沈降し、海底でその上に約4000 万年前のレキ岩層がたい積した様子を示しています。

山陽小野田市縄地ヶ鼻の「付加体たい積物」

2.5 億年以上前に日本列島ができるときに、チャートを乗せた海洋プレートが大陸プレートにぶつかって両者が混ぜ合わされました。このような遠洋の深海にできるチャートと陸の周辺でできた泥岩が一緒に見られるのは付加体と呼ばれています。